「題意」という言葉を使うの止めませんか？

桂田 祐史

2019 年 5 月 14 日

「〜を証明せよ」、「〜を示せ」という問題 (証明問題) の答の最後に、「題意が示された」とか、「題意が成り立つ」とか書く人が時々います。

題意って何でしょう。国語辞書を見ても[1]、(1) 題、(2) 問題の意味、くらいしか書いていません。

どういうときに使うか、ということを見ると、証明の最後に書かれていることが多い。証明の終わりに書く決まり文句、と考えている人が多いでしょうか。

でも、「題意が示された」という表現は、今の高校の数学の教科書では使ってないはずです (昔はあったのかもしれませんが、もうすぐ還暦の私も知りませんから、あったとしてもすごく古いだろうと思います)。そういうのを見た・聞いた覚えのある人は、教科書ではなく、問題集などで見たか、あるいは、そういうのを見て使っている人から聞いたのだと思います。

別に古い言葉を使うのは間違いというわけではないですが、止めませんか？

近い表現としては、Q.E.D. というのがあります。これはギリシャ語の ὅπερ ἔδει δεῖξαι がルーツで (「これが証明すべきことであった」という訳を見た覚えがあります)、ラテン語の “Quod Erat Demonstrandum” (「かく示された」) に訳されたとかいうものです。それを使うとか (私の趣味ではないです、念のため)。

もしかすると、「題意は示された」というのは、Q.E.D. の日本語訳なのかな？

今だと、証明の終りを表すのに、■ みたいに四角を書いたり (塗りつぶすのが面倒なのか、ただの□を使う人もいます)、二重スラッシュ // (特に手書きの場合) を使う方が普通のようです。日本語にしたければ「証明終」というのでもよいでしょう。

問題文に書かれている条件から、という意味で、「題意によって」という表現を使うこともありますが、これについては、「仮定から」とするか、より具体的に条件を書くべきでしょう。

[1]国語辞典に数学で使う言葉なんか書いていないのでは？ と思う人がいるかもしれませんが、国語辞典は結構頑張って数学用語を載せています。それなりに参考になります。たまに「あれ？」と思うこともあるけど。